

12/23  
(月)

## 霊の衣を着て

ヨハネの黙示録一六章一〜二節

見よ、私は盗人のように来る。裸で歩くのを見られて恥をかかないように、目を覚まし、衣を身に着けている人は幸いである。(15)

いよいよ審判が始まります。ここにはオウム真理教が世の中を騒がせた「ハルマゲドン」という不気味な言葉が出てきます。私たちが心に留めるべきことは、最後の災いを引き起こしたのは神殿から発せられた「大きな声」(一) だということです。神がそれらをお命じになったゆえに起こるのです。この世界は、「光あれ」という神の言葉によって始まり、同じ神の言葉によって終わりを迎えます。天地の創造も終末も、神のみ心が貫かれるわざだということです。全ては義なる神の手によることを信じる者たちは、いたずらに恐れることはありません。偽りの宗教家たちが語ることに動揺させられるのではなく、聖書が語ることにこそ耳を傾けます。そして、主が再び来られる時を心の目を覚まして待つのです。主は私たちを滅ぼすために来られるのではなく、救うために来られるのですから。